



東洋大学

井上記念館

東洋大学 大学院
ガイドブック 2024

TOYO UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOLS
GUIDE BOOK
2024

東洋大学大学院

研究科／専攻一覧

文学研究科	哲学専攻
	インド哲学仏教学専攻
	日本文学文化専攻
	中国哲学専攻
	英文学専攻
	史学専攻
	教育学専攻
	国際文化コミュニケーション専攻
社会学研究科	社会学専攻
	社会心理学専攻
法学研究科	私法学専攻
	公法学専攻
経営学研究科	経営学・マーケティング専攻
	ビジネス・会計ファイナンス専攻
経済学研究科	経済学専攻
	公民連携専攻
国際学研究科	グローバル・イノベーション学専攻
	国際地域学専攻
国際観光学研究科	国際観光学専攻
理工学研究科	機能システム専攻
	電気電子情報専攻
	応用化学専攻
	都市環境デザイン専攻
	建築学専攻
	建築・都市デザイン専攻
総合情報学研究科	総合情報学専攻
生命科学研究科	生命科学専攻
	生体医工学専攻*
食環境科学研究科	食環境科学専攻
情報連携学研究科	情報連携学専攻
社会福祉学研究科	社会福祉学専攻
ライフデザイン学研究科	生活支援学専攻
	ヒューマンライフ学専攻
	人間環境デザイン専攻
健康スポーツ科学研究科	健康スポーツ科学専攻
	栄養科学専攻

*2022年5月現在設置構想中。専攻の名称は仮称であり、計画内容に変更となる可能性があります。
開設に伴い理工学研究科生体医工学専攻は2024年度に募集を停止します。

文学研究科



Professor
文学研究科長
中里 巧

本学で最も歴史のある研究科であり、人文学を扱う学問分野8専攻を設置しています。「考える道具」としての言葉を手がかりに、言葉の本質に迫りながら、人間の活動を広い視野で捉えて学んでいく本学の伝統を受け継いだ研究科です。修士生は研究職のほか、教員や公務員などの高度専門職業人として活躍しています。

哲学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(文学) / 博士(文学)

本専攻は、理論哲学と実践哲学の区別された統合を理念に掲げ、これを社会で実現できる人材の養成を目的としています。理論哲学を軸にする場合には、伝統的哲学のテキスト解読と解釈の積み重ねのうえに立って研究を進めます。また実践哲学は、「身体の哲学」をテーマに認知運動療法の専門家や外国人講師を招くなどさまざまな実践家の特別講義を行うほか、精神医学の講義も受講できます。

日本文学文化専攻

取得できる学位 ▶ 修士(文学) / 博士(文学)

本専攻は、自国の言葉の粋として集積された文学遺産の研究実践を通じ、現代に生起する文学・文化に創造性を持って立ち向かうための高度な究明能力を育むことを一番の目的としています。古代中世から、近現代の文学・文化に至るまで、それぞれに精通した教員を揃え、教員と院生、院生同士、そして内外の学会参加者との活発なコミュニケーションを促しながら、奥行きのある研究へと導きます。本専攻の有意義な環境をぜひご活用ください。

英文学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(文学) / 博士(文学)

本専攻では英文学・米文学・英語学への興味と熱意を抱き続けている方々に本格的な学びの場を提供します。英文学・米文学・英語学の研究は、学部での勉強を終えても、まだその入り口にたどり着いただけと言わざるを得ず、大学院で学んでこそ、その本当の意義や楽しみを知ることができます。本専攻は都内主要大学を含む12大学院からなる「英文学専攻課程協議会」に加盟しており、他大学院の授業も聴講でき、加盟大学の図書館を利用することも可能です。

教育学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(教育学) / 博士(教育学)

本専攻は、「学校教育」「教育心理」「生涯学習・社会教育」「特別支援教育」の4領域を専門とし、各領域の問題解決につながる実践的研究を重視しています。専修免許状や学位取得をめざす学校教員の方々、地域や職場において研修等教育業務に従事されているの方々、地方自治体において社会教育に携わっている方々が、働きながら研究・学習を続けられるように、履修や指導体制の整備・充実を図っています。本専攻における学びを人生のスキルアップにご活用いただければ幸いです。

インド哲学仏教学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(文学) / 博士(文学)

本専攻は、インド古代・中世・現代の思想・文化、およびインドで開花した初期仏教・大乘仏教、そしてアジア各地で諸民族の独自の思考により新たに構築された仏教にいたるインド学仏教学全般を研究対象にしています。原典を厳密に追究したいという本格的な研究者のみならず、インド思想や仏教思想を人生の指針として社会で活躍する高度教養人の育成も目標の一つですので、社会人の方々の参加も歓迎しています。特定の宗派にとらわれず、各自が自由に知りたいことを探究できる環境で、一緒に学んでみませんか。

中国哲学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(文学) / 博士(文学)

本専攻は、日本で唯一「中国哲学」を専攻名とする貴重な存在です。この名称には、本学が哲学館として出発した伝統が、反映されています。さらに中国哲学の学びが、現代においても意義を持ち続けていることを表しています。本専攻で扱う研究領域は、中国哲学のみならず中国文学や日本漢学まで含めて、広く中国学に関する全般に及んでいます。教育面では中国学を対象とした学びを通して、実証的な研究方法と実践的な発信能力を身に付けた人材の育成を図っています。

史学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(文学) / 博士(文学)

本専攻には、日本史学、東洋史学、西洋史学の3コースがあり、横断的な受講も可能です。社会人の方も学べるように昼夜開講制を採用し、社会人入試も実施しています。各コースの教授陣は、史料の読み込み・分析の手法などを伝えるとともに、個々の研究テーマに沿った丁寧な指導を行い、独創的でユニークな研究成果を出せるようサポートします。日本学術会議登録団体である「白山史学会」は、院生の研究発表の場であり、またその組織運営に携わることを通じて、史学の世界への視野を広げます。

国際文化コミュニケーション専攻

取得できる学位 ▶ 修士(国際文化コミュニケーション)
▶ 博士(国際文化コミュニケーション)

英・仏・独・日本語教育学を学ぶ「言語コミュニケーション分野」と、各言語圏の文学文化を学ぶ「国際文化分野」の両分野を学びます。中・高校の英語科「専修免許状」も取得可能。実践的な適応力を身に付けた国際的な高度専門職業人及び教養人、言語コミュニケーション及び世界の諸地域の文化に関する専門的教育・研究の分野で活躍できる人材を養成します。外国人留学生、社会人への門戸も開いています。

社会学研究科



Professor

社会学研究科長
北村 英哉

社会の諸問題を解決するためのアプローチとして「社会学専攻」「社会心理学専攻」の2専攻を設置しています。調査や実験、理論研究により知識を集積。優れた人材を養成し、多数の研究成果で社会貢献を目指します。まなざしは常に社会へ。高度な判断力を養った問題解決のエキスパートがここから巣立ちます。

社会学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(社会学) / 博士(社会学)

博士前期課程では、「現代社会学コース」「社会文化共生学コース」「メディアコミュニケーション学コース」「社会実践学コース」の4コースが設置されています。「現代社会学コース」には社会学理論、家族、文化、犯罪、都市、宗教、国際、教育などの分野が含まれます。「社会文化共生学コース」では環境、多文化共生、途上国の文化などの問題が扱われます。「メディアコミュニケーション学コース」にはマスコミュニケーション論、情報社会学、ネットコミュニケーション論、メディア産業論、災害情報論、広告論などの分野が含まれます。そして「社会実践学コース」(夜間開講)では、雇用・労働、教育、ジェンダー、貧困・格差、ソーシャル・インクルージョンや支援的な社会の仕組みなどに関わる課題が扱われます。本専攻は、このように4つのコースで現代社会の諸問題を広くカバーしていることが大きな特徴です。後期課程ではさらに専門的な研究を進める研究者の養成を目指します。

本専攻の社会調査関連科目は「専門社会調査士」資格科目の認定を受けており、また研究者を志す方にはティーチング・アシスタントや院生研究員のポストを考慮。社会人のために、昼夜開講としているのも大きな特色です。

社会心理学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(社会心理学) / 博士(社会心理学)

博士前期課程では、社会心理学のさまざまな知見に基づき、人間行動を深く理解するための基礎能力を養成。

博士後期課程では、現代のさまざまな問題を解決できる優れた人材を育成し、同時に倫理性や社会関連性も重視しながら多様な研究法の習得と国際性を身につけるための研究・教育を推進しています。

また、院生・教員が全員出席する「社会心理学総合研究」では毎回活発な議論が展開されており、学外の研究者にも参加してもらい格好の訓練の場となっています。国内外での学会発表も積極的に奨励しています。

法学研究科



Professor

法学研究科長
清水 宏

「私法学専攻」と「公法学専攻」の2専攻を設置しています。柔軟に、公平に「法の精神」を貫くことができる、現代社会に不可欠な真の法律家を養成します。また、公法学専攻では税理士志望者への指導を行うなど、実践的教育にも取り組んでいます。

私法学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(法学) / 博士(法学)

本専攻の授業は、各自が主体性を持って臨み、みんなで討論し合うゼミ形式が中心。これにより、資料の検索能力や情報収集能力を磨くだけでなく、研究発表や自己表現の能力の向上も目指します。法律の精緻化が顕著となっている今、内外の私法に関する高度な専門知識を携え、広い視野に立って社会の諸問題を考え、解決することができる人材が広く求められており、本専攻はそのような人材の養成に寄与するよう、指導体制を整えています。

また、専攻内に、司法書士養成コース・社会保険労務士養成コースを設け、履修モデルを提示。広い視野での知識と深い教養を身につけるとともに、実務に密着した指導を行うことで、実社会において法的素養を身につけた専門家として活躍できる人材の養成を目指しています。

公法学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(法学) / 博士(法学)

本専攻の特色として、次の3つをあげることができます。(1)幅広い専門分野に対応できる教員が揃っていること、(2)私法学専攻との垣根を低くし、横断的な研究を可能としていること、さらに、(3)税理士試験の科目免除を視野に入れた租税法の指導にも力を注いでいること、の3つです。学生の皆さんには、個々の研究テーマをしっかりと見据え、広い視点から学べる、この環境を、是非とも活かしていただきたいと願っています。本専攻では、税理士試験の科目の一部免除を目指す方々が、質・量ともに特に充実した修士論文の作成を目指して頑張っていることも特徴の一つです。そのために、租税法専門の教員2人体制で、密度の濃い指導を行い、よりすぐれた修士論文の完成に向けて手助けを行うことを心掛けています。

経営学研究科



Professor

経営学研究科長

富田 純一

本研究科は、「経営学・マーケティング専攻」(昼夜開講)と「ビジネス・会計ファイナンス専攻」(夜間・土日開講)の2専攻から構成されています。両専攻では、それぞれ少人数教育と徹底した論文指導により、研究者、グローバルなビジネスパーソン、会計プロフェッショナル、ならびに中小企業診断士資格を持つコンサルタントを養成します。

経営学・マーケティング専攻

取得できる学位 ▶ 修士(経営学)又は修士(マーケティング)
▶ 博士(経営学)又は博士(マーケティング)

博士前期課程では、経営学・マーケティングに関する理論や研究手法の習得を目指します。その上で、各自の研究テーマに基づき、修士論文を完成させます。このプロセスを通じて、論理的思考力と実践的課題への対応能力を磨くことを目的としています。博士後期課程では、経営学・マーケティング関連の理論・研究手法を前提としつつ、各自の研究テーマに即して最先端の知見を生み出すべく、研究プロセスを進めます。応用的思考力や実践的対応力の向上は勿論ですが、独立した研究者としての能力獲得を目指します。

ビジネス・会計ファイナンス専攻

取得できる学位 ▶ 修士(経営学)
▶ 博士(経営学)又は博士(会計・ファイナンス)

グローバル化・IT化・多様化する経営システムが進展する中、そうした変化に対応できるマネジメントスキルへのニーズに応じて誕生したのが本専攻です。主に社会人を対象に、「企業家・経営幹部養成コース」、「会計ファイナンス専門家養成コース」、そして「中小企業診断士登録養成コース」を設置。「高度な実践経営学」の理念の下、新しい経営システムに対応できるビジネスリーダーや経営幹部、会計・税務やファイナンス領域の新分野に対応できる高度職業専門家を養成します。

経済学研究科



Professor

経済学専攻長

久米 功一



Professor

公民連携専攻長

根本 祐二

「経済学専攻」は経済学研究者の養成および、企業・官公庁、地域環境に資する人材を提供します。また、「公民連携専攻」は、公務員、建設、不動産、金融等の人材が、公共サービスの費用対効果を高めるためのPPP/PFI手法を学ぶ日本で唯一の大学院です。

経済学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(経済学) / 博士(経済学)

本専攻では、日々変化する社会に対応できるプロフェッショナルを養成すべく、経済学各分野のエキスパートによる指導の下、個々のニーズに合わせた研究を展開。研究者や教育者を目指す人のみならず、実業界で活躍しようという人にも有益な知見を与えます。また、専門研究者を目指す人には博士後期課程進学の道が開かれています。



公民連携専攻

取得できる学位 ▶ 修士(公民連携)

本専攻は、Public(官・公)、Private(民・市民)、Partnership(連携)を学ぶ社会人大学院です。少子高齢化、人口減少、インフラの老朽化、自治体財政の逼迫など課題が山積する昨今、PPPは地方自治体の未来を照らす重要な政策ツールとして成長しています。公民連携専攻は2006年の開設以来、国内外の自治体と連携してさまざまなプロジェクトを実現させてきました。公民連携専攻内に開設された3つのコースには、自治体職員、建設、不動産、金融分野、海外などで活躍する多彩な学生が集まり、それぞれの目的に合ったPPPを学び、理解を深めています。公民連携専攻での教育活動に加え、PPP研究センター、アジアPPP研究所での研究活動の実績が評価され、2015年には本学が実施するPPPの教育研究活動が国連CoE地方政府PPPセンターの認定を受けました。今や世界のPPPの情報が集まって来るとともに、多くの研究成果を発信する知的拠点となっています。

※2024年4月から教育システムの改革や1年修了のプロフェッショナルコースを新設するなど、様々な変更を予定しています。詳細は本学Webサイトをご確認ください。
<https://www.pppschool.jp>

国際学研究科



Professor

国際学研究科長
岡本 郁子

現場主義を重視した理論と実践とのバランスが取れた学際的な教育課程を体系的に編成することで、様々な課題と可能性を持つグローバルな社会において、国際的な視野のもとで、自律的・持続的な地域の発展に貢献する地域開発リーダーとして、国内外の「地域づくり」に貢献できる高度な専門的能力を有する専門家を養成します。

グローバル・イノベーション学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(グローバル・イノベーション学)

本専攻は、イノベーションを通じてグローバル社会に貢献しようとする起業家精神(アントレプレナーシップ)にあふれ、課題解決に活用しうる知識、英語を駆使した実践的コミュニケーション能力と専門的能力、卓越したリーダーシップを兼ね備えた次世代リーダーの養成を目的とします。

講義および研究指導は原則すべて英語で行われ、日本人・外国人学生の交流を通じた協働教育環境の下、知識を実践活動へ転換するための分析能力や遂行能力を養成します。

国際地域学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(国際地域学) / 博士(国際地域学)

本専攻では、様々な課題と可能性を持つグローバルな社会において、国際的な視野のもとで、自律的・持続的な地域の発展に貢献する地域開発リーダーとして、国内外の「地域づくり」に貢献できる高度な専門的能力を有する専門家を養成することを目的としています。

博士前期課程では、国内外の「地域づくり」に貢献できる高度な専門的能力を有する専門家を養成し、博士後期課程では、国内外の「地域づくり」に貢献できる理論と実践とのバランスが取れた学際的な専門家・研究者を養成します。

NEW TOPIC

カーティン大学(オーストラリア)とのダブルディグリープログラムがスタート

ダブル・ディグリーとは、日本と海外の大学同士が相互に、教育課程や単位互換のあり方などについて協定を取り交わし、一人の学生に対し双方の学位を授与する取り組みです。

国際学研究科は、2023年3月にカーティン大学と修士学位のダブルディグリープログラム協定を締結しました。東洋大学大学院での学びと1年間のオーストラリア留学により、修了者には東洋大学とカーティン大学の2つの大学から学位が授与されます。本プログラムにより、相対的に経済負担が少ない形で海外大学院の学位が取得できることや、海外での就業がより有利になるなどのメリットが期待されます。

国際観光学研究科



Professor

国際観光学研究科長
野村 尚司

インバウンド観光におけるイノベーションを起こせる画期的な方策を指導できるリーダー、国際的な観光開発プロジェクトにおける日本と諸外国の架け橋を務められる人材、その人材を育てる役割を担う教育者、観光学という応用分野の学術的発展に寄与できる研究者を養成します。

国際観光学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(国際観光学) / 博士(国際観光学)

本専攻は、持続可能なグローバル観光を牽引する観光学プロフェッショナル人材を養成するため、国際観光学部を基礎とし設置されました。博士前期課程では、インバウンド観光におけるイノベーションを起こせる画期的な方策を指導できるリーダー、国際的な観光開発プロジェクトにおける日本と諸外国の架け橋を務められる人材を社会に送り出すことを目的とし、博士後期課程では、俯瞰力と独創力を備えた国際観光分野を牽引する能力を習得させ、国内外のグローバル観光や観光開発プロジェクトにおける指導者や、将来の国内外の観光分野に従事する人材を育てる役割を担う教育者、観光学という応用分野の学術的発展に寄与できる研究者を養成します。



理工学研究科



Professor

理工学研究科長

松本 潔

理学に基づいた基礎的な自然科学の法則や考え方を理解し、それを科学・技術の分野に応用することにより、環境と調和のとれた高度な専門能力・創造力・人間性豊かな倫理観を備えた、専門的職業人材および研究者・教育者を養成します。

※理工学研究科生体医学専攻は、2024年4月に改組する生命科学研究科に統合され、修学キャンパスが朝霞キャンパスとなる予定です。理工学研究科としての募集は2023年秋入学のみとなります。

機能システム専攻

取得できる学位 ▶ 修士(理工学) / 博士(理工学)

諸力学に基礎をおく機械工学を基軸に、制御・センシング・情報処理とこれらの発展・融合領域をも包括した境界分野にわたる教育・研究を行います。機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域と、機械科学分野における材料・基礎力学等にかかわる確かな見識と創造的な研究力を涵養するとともに、広範な視野を有する技術者、異質な技術分野間の仲立ちとなり得る研究者の育成を目指します。

電気電子情報専攻

取得できる学位 ▶ 修士(理工学) / 博士(理工学)

現代における電気・電子・情報通信分野の領域は多岐にわたりますが、そのシステム技術は複合技術であり、個々の技術或いは一つの技術領域だけでは実現困難です。技術者は専門分野だけでなく関連する領域にも携わる必要があり、その対応が求められます。エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野と、それらの境界領域や融合領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得した技術者・研究者の育成を目指します。

都市環境デザイン専攻

取得できる学位 ▶ 修士(工学)

環境問題の重要性が高まるにつれ、建設業界も「ものありき」から科学面が重視されてきています。高度経済成長期に造られた公共物はメンテナンス期を迎え、長寿命化対策や再構築を迫られるとともに、地震などの自然災害多発国の日本にとって、道路や橋、上下水道の配備などには確かな技術力が求められています。人々が安全で安心、健康で快適な生活を支える健全な都市システムの実現と、都市の持続的な発展につながる自然との共生を実践的にデザインできる都市環境創出のスペシャリストの育成を目指します。



応用化学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(理工学) / 博士(理工学)

広範な化学の基礎となる有機化学、無機化学、物理化学、分析化学をベースにした先端的材料の研究、開発や、生物化学、環境化学に立脚したセンサ技術の開発、エネルギー・環境問題などへの対応もできる技術者、高度な専門性を有する研究者を養成し、化学技術の発展に寄与します。

建築学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(工学)

地域づくりの核として建築・まちに関する価値観を根本から問い直し、サステイナブルでレジリエントな在り方の追求と、それを実現するための技術の開発が必要とされています。こうした地球的規模からひとりの人間に至るまで、幅広い視野から総合的に快適、機能的で、かつ人々の心に響く形態、空間、まちの姿を創造していくことが求められています。建築、まちづくり、環境学等の各専門領域における先端の知識と技術力、それらを総合化するプロデュース、デザイン、マネジメントの能力を身に付け、責任感と倫理観を備えた国際的にも活躍できる人材の輩出を目指しています。

建築・都市デザイン専攻

取得できる学位 ▶ 博士(工学)

建築学、土木工学、都市工学、環境学を基盤とした高度で発展的、独創的な研究を展開します。建築・都市の計画、デザイン、建設、保全、マネジメント等に関わる研究や実務は、多種多様な条件を整理しながら実施されますが、そこには相矛盾する要素も多く存在します。その中で、目指す目標を堅持するとともに、他分野の課題や動向もしっかりと踏まえながら、柔軟性と創造力をもって最適解を見出し、実現に導くことのできる、高い専門性と倫理感を兼ね備えた研究者、技術者の育成を目指します。

総合情報学研究科



Professor

総合情報学研究科長
土田 賢省

情報を共通言語として異分野を統合する総合情報学と、最先端ICTの高度な専門知識・技能、行動特性を常に意識させる教育指導法により、国際的に通用する高度な専門的職業人を養成します。

総合情報学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(情報学) / 博士(情報学)

本専攻は、総合情報学を適用する3つの重要分野として「システム情報分野」、「メディア情報分野」、「心理・スポーツ情報分野」を設けています。

システム情報分野：最先端ICTと経営情報学を学び実践的な専門職の育成を目指します。

メディア情報分野：最先端ICTとメディア情報学を学び、実践的な専門職の育成を目指します。

心理・スポーツ情報分野：最先端ICTと心理・スポーツ情報学を学び、実践的な専門職の育成を目指します。

生命科学研究科



Professor

生命科学研究科長
根建 拓

生命科学研究科では、生命現象を理解するための高度な知識を修得し、専門分野をより深く掘り下げる能力を身に付けるとともに、広い視野と高い倫理観を持って人類が直面している地球規模の課題に果敢に挑戦し、地球社会に貢献できる人材を養成します。

※2024年4月から修学キャンパスが朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)になります。

生命科学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(生命科学) / 博士(生命科学)

21世紀の人類には、環境負荷の少ない持続可能な社会の構築という大きな課題が突きつけられています。そうした時代の要請に応え、地球環境の維持および改善、不足する食料の確保、健康寿命延伸や高齢化社会への対策などの問題解決に中心的な役割を担うのが生命科学です。本専攻では、生命科学に関する幅広い知識や研究方法を学び、高度な専門的能力を培います。農作物に関連する分野、極限環境に生育する微生物に関する分野、健康長寿に貢献する分野、環境保全と生物多様性に関する分野などで、世界をリードする教育研究が行われています。

生体医工学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(生体医工学) / 博士(生体医工学)

生命医化学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と技術を修得し、細胞、分子レベルにおける医療技術の要求に応えるため、理学的探求心を培い、生体医工学分野における最先端技術である、ナノ・センシング、ナノマテリアル、免疫学、ナノテクノロジー、プラズマ医工学の知識技能を身につけた人材の輩出を目指しています。

※2022年5月現在設置構想中。専攻の名称は仮称であり、計画内容は変更となる可能性があります。開設に伴い理工学研究科生体医工学専攻は2024年度に募集を停止します。

食環境科学研究科



Professor

食環境科学研究科長
宮西 伸光

食環境科学領域の視点から食品・栄養および運動を通じて健康寿命の延伸などの社会問題について考え、食の安全・安心に係る分野でグローバルな視点を持ち、次世代の食を創出するための創造性・柔軟性の豊かな研究・開発能力を有する研究者の養成、及び専門知識・能力を持つ高度専門職業人を養成します。

※2024年4月から修学キャンパスが朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)になります。

食環境科学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(食環境科学) / 博士(食環境科学)

博士前期課程は、高度な倫理観によって、生命と健康、次世代の食品開発や食の安全に係る分野において、指導的役割を果たすとともに、国際的に活躍できるような高度な専門能力を有する実務スペシャリストを育成します。博士後期課程は、グローバルな視点から食を取り巻く環境を科学的に考察し、国際的な幅広い視野に立つて、更に高度な知識と研究能力を有し、世界・日本社会が直面する多様な食環境科学領域での諸問題に対して、解決に向けた強い責任感と倫理観をもって、新たなイノベーションを創造して解決を図る研究者、技術者、教育者等の人材を育成します。



2024年竣工の新校舎(朝霞)

情報連携学研究科



Professor

情報連携学研究科長

花木 啓祐

デジタルトランスフォーメーションが進みつつある社会を実りあるものにするためには、専門的な知識に基づく連携が必要です。ビジネス、シビルシステム、エンジニアリング、デザイン分野へ情報通信技術を応用するための高度な教育と研究を行います。それによって、個別分野のみならず社会のすべての分野に貢献し、社会発展の基盤となる専門人材を養成します。

情報連携学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(情報連携学) / 博士(情報連携学)

8つの情報技術の基礎理念(①ビジネス・インキュベーション、②データ・サイエンス、③インフラ・サービス、④クオリティ・オブ・ライフ、⑤コンピュータ・アーキテクチャー、⑥コンピュータ・ネットワーク、⑦デジタル・デザイン、⑧ユーザ・エクスペリエンス・デザイン)にかかわる最先端の研究開発を行う研究者の養成とともに、それら理念の連携を図る情報連携学の実践を行い、社会にイノベーションをもたらす専門的人材を養成します。多様な分野の学部出身の方や社会人の方を歓迎します。社会人の方はオンラインで全課程の履修が可能です。



社会福祉学研究科



Professor

社会福祉学研究科長

伊奈川 秀和

社会福祉の問題に対する分析力や解決に必要な社会資源を創造・開発する能力を習得させることを目的とし、学内研究拠点等での実績や、国内外でのフィールド活動を踏まえた教育・指導を通じて、社会福祉の理論と実践に関して専門的な知見と実践力を有する人材を養成します。

社会福祉学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(社会福祉学)又は修士(ソーシャルワーク)
▶ 博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)

いま、社会では多くの人たちが、さまざまな生活問題を抱えながら生活しています。社会福祉の現場では、そうした人々に対して、援助実践のマイクロレベルから制度政策のマクロレベルに至る重層的な領域に対応できるマンパワーの大幅な拡大が求められています。本研究科は、博士前期課程においては、現場で要求されているスーパーバイザーとしての役割を果たせる専門性を備えた人材を育成し、博士後期課程においては、そうしたマンパワーを養成する大学、専門学校における教員の育成を目指し、社会的要請に応じていきます。さらに、国内ばかりではなく、アジア諸国等の福祉課題にも対峙できるグローバル人材を養成します。



ライフデザイン学研究科



Professor
ライフデザイン学
研究科長
高橋 良至

現代社会における複雑化・多様化した生活上の諸問題解決のため、生活者に密着した福祉、保育、環境とモノのデザインの複数領域からアプローチします。各領域における実践現場に密着した高度な教育を展開し、人々のQOL(生活の質)向上に貢献し得る高度専門職業人ならびに研究者、教育者を養成します。

生活支援学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(社会福祉学)又は修士(保育学)

修士課程： 高齢者・障害者支援学コース／子ども支援学コース
高齢者、障害者、子どもおよびその家庭・地域への支援を担う、高度専門職業人を養成します。

人間環境デザイン専攻

取得できる学位 ▶ 修士(人間環境デザイン学)
▶ 博士(人間環境デザイン学)

博士前期課程： ユニバーサルデザインの考え方を基本に、利用者中心の環境やものづくりのデザインを担う高度専門職業人を養成します。

博士後期課程： 人間環境デザイン学分野における研究者、教育者、卓越した実務家を養成します。

ヒューマンライフ学専攻

取得できる学位 ▶ 博士(社会福祉学)

博士後期課程： 生活支援学分野における研究をさらに深め、各分野の研究者、教育者、卓越した実務家を養成します。



健康スポーツ科学研究科



Professor
健康スポーツ科学
研究科長
加藤 和則

健康やスポーツへの人々の関心が飛躍的に高まっている近年の日本及び世界において、運動や栄養を媒体とした健康増進やスポーツ振興に、エビデンスをもって科学的に取り組める専門性の高い人材が広く求められることから、当研究科では健康スポーツ学、スポーツ科学、栄養科学に関する深い見識を持った高度専門職業人ならびに教育研究者を養成します。

健康スポーツ科学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(健康スポーツ科学)
▶ 博士(健康スポーツ科学)

健康スポーツ科学専攻では、健康寿命の延伸や競技力の向上、スポーツ傷害の予防のほか、保健体育および養護教育などの実践現場における高度な教育を可能とする人材、さらには国際的に活躍できる高度な専門能力や知識を有する人材を養成します。

栄養科学専攻

取得できる学位 ▶ 修士(栄養科学)
▶ 博士(栄養科学)

栄養科学専攻は、従来の栄養学に加えて、機能性成分探索や生体応答の解析を行うニュートリションサイエンス、栄養疫学やヒト介入研究を行うニュートリションヘルスおよび未病対策方法の実践研究を行うニュートリションビジネスからなり、高度の専門性と社会で活躍する実践力を有する人材を養成します。



2023年竣工の新校舎

2023年4月に新校舎・図書館・体育館が完成しました。新国立競技場などを手掛ける隈研吾建築都市設計事務所が建築設計を担当しています。既存校舎のWELLB HUB-2とはガラス張りのブリッジでつながります。また、体育館は躍動感を演出し、サステナビリティに配慮した「木屋根架構」を採用しています。

納付金・奨学金

安心して学修に集中できるように、奨学金の給付や研究のサポートなど、学生へ向けた様々なバックアップ制度を用意しています。

納付金 [2024年度予定]

下記の金額は納入予定額のため、変更となる場合があります。(単位:円)

研究科・専攻および課程		学 費					入学年度計	
		入学金 (入学申込金)	授業料	一般施設 設備資金	実験 実習料			
文学研究科 / 社会学研究科 / 法学研究科 / 経営学 研究科(ビジネス・会計ファイナンス専攻 中小企業診断士登録 養成コース除く) / 経済学研究科(経済学専攻) / 国際学 研究科 / 国際観光学研究科 / 社会福祉学研究科 / ライフデザイン学研究科(人間環境デザイン専攻除く)	修士・ 博士前期課程	本学出身者 ^{※1}	—	450,000	90,000	—	540,000	
		他大学出身者	270,000	450,000	90,000	—	810,000	
	博士後期課程	本学出身者 ^{※1}	—	450,000	70,000	—	520,000	
		他大学出身者	270,000	450,000	70,000	—	790,000	
ライフデザイン学研究科(人間環境デザイン専攻) 健康スポーツ科学研究科(健康スポーツ科学専攻)	博士前期課程	本学出身者 ^{※1}	—	450,000	90,000	70,000	610,000	
		他大学出身者	270,000	450,000	90,000	70,000	880,000	
	博士後期課程	本学出身者 ^{※1}	—	450,000	70,000	70,000	590,000	
		他大学出身者	270,000	450,000	70,000	70,000	860,000	
経済学研究科 (公民連携専攻)	標準コース	修士課程	本学出身者 ^{※1}	—	600,000	90,000	—	690,000
		他大学出身者	270,000	600,000	90,000	—	960,000	
	プロフェッショナルコース	修士課程	本学出身者 ^{※1}	—	990,000	90,000	—	1,080,000
		他大学出身者	270,000	990,000	90,000	—	1,350,000	
経営学研究科 (ビジネス・会計ファイナンス専攻 中小企業診断士登録養成コース)	博士前期課程	本学出身者 ^{※1}	—	900,000	90,000	160,000	1,150,000	
		他大学出身者	270,000	900,000	90,000	160,000	1,420,000	
理工学研究科 / 生命科学研究科 / 総合情報学研究科 食環境科学研究科 健康スポーツ科学研究科(栄養科学専攻)	博士前期課程	本学出身者 ^{※1}	—	550,000	130,000	120,000	800,000	
		他大学出身者	270,000	550,000	130,000	120,000	1,070,000	
	博士後期課程	本学出身者 ^{※1}	—	550,000	80,000	120,000	750,000	
		他大学出身者	270,000	550,000	80,000	120,000	1,020,000	
情報連携学研究科	博士前期課程	本学出身者 ^{※1}	—	550,000	250,000	—	800,000	
		他大学出身者	270,000	550,000	250,000	—	1,070,000	
	博士後期課程	本学出身者 ^{※1}	—	550,000	200,000	—	750,000	
		他大学出身者	270,000	550,000	200,000	—	1,020,000	

※1 本学の学部(通信教育課程・短期大学を除く)から大学院へ進学する場合、入学金は免除されます。本学の大学院博士前期(修士)課程から博士後期課程に進学する場合、入学金は免除されます。
 ※2 経済学研究科公民連携専攻は、2024年4月に一般施設設備資金の改定を実施します。2023年秋入学の学生は、2023年度秋学期分のみ2023年度納付金の金額が適用されます。一般施設設備資金の金額(2023年度秋学期分として150,000円)のみ2024年度と異なります。詳細については本学Webサイトをご確認ください。
<https://www.toyo.ac.jp/academics/student-support/jyugyou/campuslife/fees/>
 ①入学金(入学申込金)の納入は初年度のみです。②納付金は、全額一括納入(全納)と、授業料・一般施設設備資金・実験実習料を年2回に分けて納入する分割納入(分納)を選択することができます。③納入した入学金(入学申込金)は、「東洋大学大学院の合格した研究科・専攻に入学し得る地位を取得するための対価」としての金員であるため、入学を辞退した場合であっても返還しません。また提出した書類は返還しません。④長期履修制度の納付金等の詳細は本学Webサイトにてご確認ください。

助成金 [2024年度予定]

給付

東洋大学大学院学生研究発表奨励金

2022年度実績: 440件(学会発表 398件、論文発表 41件)

学会発表と論文発表に対し、奨励金を給付します。

【学会発表に対する奨励金制度】

国内外の学会の開催する学術研究会(大会、部会、シンポジウム等)において、正規の手続きにより行われる個人研究または共同研究による発表を行った場合、一定金額の奨励金を給付します。

★給付金額: 20,000円～200,000円(給付金額には条件があります)

【論文発表に対する奨励金制度】

学術雑誌等[学会誌・論文誌・学術雑誌(いずれも査読付)]に正規の手続きにより原則としてファーストオーサーとして論文を投稿し、当該論文が掲載された場合と、掲載された論文が学会賞等を受賞した場合は一定金額の奨励金を給付します。

★給付金額: 50,000円または100,000円(給付金額には条件があります)

給付

東洋大学校友会学生研究奨励基金

東洋大学に在籍する学術優秀な学生に対し、その知的道徳的および応用的能力を展開させ、かつ東洋大学建学の精神に基づく学風を守り育てる後継者の育成を図るため、研究奨励金および奨学金を授与し、東洋大学の発展に寄与することを目的としています。

【学生研究奨励賞】

東洋大学に在籍する学生の研究に対する褒賞

★大学院(博士前期・修士課程)は各専攻1名、賞状および副賞(1名2万円)

【校友会奨学金】

東洋大学大学院博士後期課程に在籍者に対する奨学金

★校友会奨学金 7名以内 ★授与記および奨学金(1名年間30万円)

助成

井上円了記念研究助成

創立者井上円了を記念した研究助成です。建学の精神に基づき本学の研究の振興に寄与し、本学の研究機関としての活動を活性化することを目的としています。学術的価値が高く、本学の個性形成に資するような特色ある研究に対する助成と、研究成果公開のための書籍の刊行に對しての助成です。

★研究の助成: 1件につき上限70万円

★刊行の助成: 1件につき上限100万円(刊行経費の半額を超えないものとする)

奨学金 [2024年度予定]

給付

東洋大学大学院奨学金

東洋大学独自の奨学生制度です。学術の奨励と経済支援を行うことにより、有為な人材育成に資することを目的とします。

給付金額・申請時期

第1種 ▶ 4月上旬～中旬に申請

学業成績、人物とも特に優秀で本奨学生としてふさわしい者
修士・博士前期課程／博士後期課程 年額 300,000円

第2種 ▶ 発生日より3ヵ月以内に申請

就学中に主たる家計支持者の死亡または失業により、修学を継続するための経済的援助が必要となった者
修士・博士前期課程／博士後期課程 該当年度に納入すべき授業料の半額に相当する額

給付

国・地方自治体等連携協定機関からの入学者に対する奨学金 2022年度実績：5名

東洋大学独自の奨学金です。大学院研究科・専攻と連携協定を締結した機関から入学する職員に対し奨学金を給付します。

★給付金額：当該年度に納入すべき授業料の半額に相当する額

★申請時期：入学する学期の初頭

給付

塩川正十郎奨学金 ※出願制ではありません。

東洋大学独自の奨学金です。元総長・故 塩川正十郎氏により、東洋大学の国際交流の振興を図り、外国人留学生の育成に資することを目的として創設され、留学生(在留資格：「留学」)で成績優秀な学生に対し、奨学金を1年間給付します。

★給付金額：2022年度実績 月額100,000円×12ヶ月

★採用人数：2022年度実績 2名(大学院)

減免

私費外国人留学生授業料減免

在留資格が「留学」の留学生に対して、授業料の30%を減免します。なお、選考にあたっては授業の成績等を加味します。

★申請時期：入学する学期の初頭

貸与

日本学生支援機構奨学金

定期：4月／秋入学生は9月実施予定

(独)日本学生支援機構が行っている奨学金です。経済的理由により修学が困難である優れた学生に対して貸与します。

第1種 ▶ 無利子貸与	修士・博士前期課程 … 月額 50,000円 / 88,000円(金額選択) 博士後期課程 … 月額 80,000円 / 122,000円(金額選択)
第2種 ▶ 有利子貸与	全課程 … 月額 50,000円 / 80,000円 / 100,000円 / 130,000円 / 150,000円(金額選択)

教育訓練講座

[一般教育訓練給付制度・専門実践教育訓練給付制度]

厚生労働省が定める一定の基準に該当する受給資格者が、本学の指定を受けた専攻・コースを修了(修士学位取得)した場合、大学に納入した入学金・授業料の一部(受給資格により金額が異なる)の給付を受けることができる制度です。



大学院で学びたい方への情報

大学院への進学を検討されている方向けに、さらに詳細な情報を本学Webサイトにまとめておりますので、ぜひそちらもご覧下さい。

▶ **大学院入試情報**

▶ **大学院進学相談会・説明会について**

▶ **奨学金・奨励金**

新型コロナウイルス感染拡大の影響等による変更等についても、
本学Webサイトで随時お知らせいたします。



ACCESS MAP

白山キャンパス

文学研究科 / 社会学研究科 / 法学研究科
経営学研究科 / 経済学研究科 / 国際学研究科
国際観光学研究科

- 都営地下鉄三田線「白山駅」徒歩5分
- 都営地下鉄三田線「千石駅」徒歩7分
- 東京メトロ南北線「本駒込駅」徒歩5分
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
E-mail: mldaig-ad@toyo.jp (大学院教務課)

川越キャンパス

理工学研究科* / 総合情報学研究科

- 東武東上線「鶴ヶ島駅」徒歩10分
〒350-8585 埼玉県川越市鯉井2100
E-mail: mlkdaigakuin@toyo.jp (川越教学課)

朝霞キャンパス

生命科学研究科* / 食環境科学研究科*

- 東武東上線「朝霞台駅」徒歩10分
- JR武蔵野線「北朝霞駅」徒歩10分
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1
E-mail: mlifinkyomu@toyo.jp (板倉事務課)

赤羽台キャンパス

情報連携学研究科 / 社会福祉学研究科
ライフデザイン学研究科 / 健康スポーツ科学研究科

- JR「赤羽駅」徒歩8分
- 東京メトロ南北線「赤羽岩淵駅」徒歩12分
〒115-8650 東京都北区赤羽台1-7-11
赤羽台事務課 (E-mail)
・ ml-iniad-em@toyo.jp (情報連携学研究科)
・ mlags@toyo.jp (社会福祉学研究科 / ライフデザイン学研究科 / 健康スポーツ科学研究科)

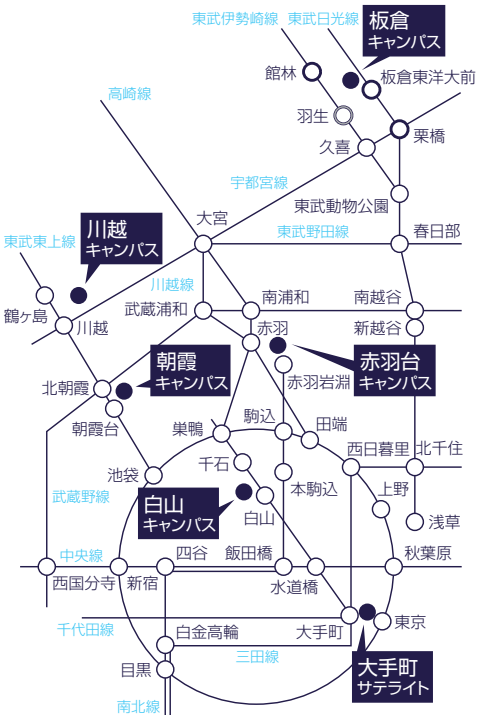
大手町サテライト

経済学研究科 (公民連携専攻)

- JR「東京駅」丸の内北口 徒歩5分
- 東京メトロ東西線「大手町駅」徒歩1分 (B3出口直結)
- 都営地下鉄三田線「大手町駅」徒歩5分 (B3出口直結)
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル1F
E-mail: ml-ppp@toyo.jp (大手町サテライト)

板倉キャンパス

- 東武日光線「板倉東洋大前駅」徒歩10分
※「館林駅」「羽生駅」からキャンパス直通のスクールバスも運行中
〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1



※生命科学研究科生命科学専攻・生体医学専攻、食環境科学研究科食環境科学専攻は、2024年4月に朝霞キャンパスに移転する予定です。詳細は本学Webサイト(https://www.toyo.ac.jp/pickup/top/future_2021/)でご確認ください。
※このガイドブックに掲載されている内容は2023年6月1日現在のものであり、今後変更となる可能性があります。



東洋大学 大学院

https://www.toyo.ac.jp/site/gs/index.html

東洋大学は2021年度に(公財)大学基準協会による大学評価(認証評価)を受け、「大学基準に適合している」と認定を受けました。この認定マークは、大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることのシンボルとなるものです。

